

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100308
法人名	株式会社 EPO
事業所名	グループホーム えん さくらユニット
所在地	福岡県北九州市門司区田野浦二丁目9番33号
自己評価作成日	令和2年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年2月14日	評価結果確定日	令和2年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着型グループホームとして、地域行事への参加を積極的に行い交流を図っている。独居の方へ台風時などの避難場所としていただいたり、施設で提供している食事と同じものをワンコインでお試しいただいたりしながら、施設を開放している。
 ・ご利用者には年に一回のバスハイク以外にも、季節にあわせドライブレクを楽しんで頂き、好みに合わせた外食会など個別の支援も行っている。
 ・住み慣れた環境で最期まで過ごして頂きたいという思いから、看取りケアを行っている。今年度も最期までご支援させていただく機会があり、ご家族から感謝していただくと共に、職員の教育にも繋がった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設される小規模多機能型居宅介護事業所(共生型)との連携を図りながら、地域の買い物弱者の方々のためのマルシェ(週1回)の開催や台風時の地域の独居高齢者の受け入れ、地域行事への参加等を通じて、地域密着型サービス事業所としての存在を高めている。また、協力医療機関や訪問看護事業所との連携を図りながら、個別の医療ニーズに対応し、看取りのケアへの支援も行っている。社会的な介護職員不足の中、理念の高みを目指しながら、地域との連携を大切にし、地域拠点としての役割に向き合おうとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を大きく貼り出し、いつでも確認出来るようにしている。夢を持つまでの余裕はないが、介護の仕事へのプライドは大切にしていこうと思いを共有し業務にあたっている。	小規模多機能型事業所が併設された「多機能ホームえん」として、理念(介護の仕事に夢とプライドを)と共に、5つの「えん(縁・円・援・園・宴)」を基本方針として、目に付きやすい場所に掲示している。地域密着型サービスとしての役割に向き合うべく、週に1回のマルシェ等を継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とは運営推進会議で情報交換を行い、要望や取り組みなどお互いに協力している。地域行事に積極的に参加したり、災害時の避難場所として施設を開放することで地域とのつながりをもっている。	災害リスクが発生した際には、地域の独居の方の避難場所として実際に活用されたり、地域の方が土嚢の設置に向けて働きかけを行ってくれたり、双方向での協力体制がある。校区の運動会に入居者の方々と共に参加したり、週に1回、マルシェを開催し、地域の買い物弱者の方々へのアプローチとしても活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時介護相談を受け付け、支援が必要となった時の手助けを行っている。認知症への理解については、市民センターでの講義など予定している他、同センターでのヨガ教室などで参加者からの質問などに対応した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活はスライドにして見ていただいている。地域の方からの意見や地域での困りごとなど、様々な情報交換を行っている。	運営推進会議には、各ユニットの入居者、町内会長、民生委員、自治連合会、まちづくり協議会、地域包括支援センター担当者等の出席を得ており、家族の参加に向けて声掛けを行っている。事業所の活動状況やヒヤリハット等を報告し、地域情報の収集の機会としても活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH連絡会は継続して参加している。事例を検討したり、意見交換する事で情報を得ている。市町村には業務での分からない事を指導いただいたり、相談をする事でその後の支援に活かしている。	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ている。門司港地区のGH連絡会も開催され、意見交換や情報共有を図っている。空室状況や不明な点の問い合わせ等、行政との連絡・相談に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新たな指針にもとづき、委員会を開催している。又、施設内外の研修と共にアンケート調査などを行い職員の意識改善や振り返りを行っている。特に気付かないうちに犯しているスピーチロックについては何度も繰り返し研修し、日常でも気づけば注意、指導できる環境を作っている。	身体拘束の適正化に向けた指針を作成し、定期的な委員会開催や研修実施、職員へのアンケート調査等を通じて、職員の意識や理解を深め、より良いケアの実践に結び付けるよう取り組んでいる。スピーチロック0を目指した研修実施や、無理に睡眠を誘導しない方針等、見えない拘束についても意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い周知を図っている。日常業務の中で気づき等あればすぐに管理者に報告している。小さな事でも職員間で注意、指導出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている方もおり、活用している。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、多機能ホームとしての年間研修計画に組み込み、職員の理解を深める取り組みがある。現在、制度を活用されている事例もあり、後見人の方の来訪や行事参加の機会がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を読み上げながら説明し、不安や疑問点など残さないように努めている。また、途中で変更などあった場合は、速やかに変更内容を知らせ、同意をえるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、苦情・相談を受け付けている。様々な意見が反映できるように意見箱を設置している。	定期的に事業所通信「明星新聞」を発行し、日常の様子を写真と共に伝えている。日常の来訪時や電話連絡等を通じて、意見や要望の収集に努めている。	運営推進会議への、家族の参加を呼び掛けている。積極的な家族意見の収集に向けて、家族会開催やアンケート調査実施等の取り組みも期待されます。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は職員会議や日常の会話から聞くようにしている。その後管理者会議などで話し合い反映できるようにしている。	定例会開催時には事前に意見を集め、会議の中で検討議題とする等、職員意見を反映しやすい工夫を行っている。浴室の手すり等の設備面や物品の購入等、実際に職員意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課システムを導入することで目標を持ち、スキルアップを目指そうと意欲を持ち仕事に就けるように支援している。面談では管理者との意思の疎通も図れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	各々の状況に合わせ勤務体制を整えることで無理なく職務につけるように配慮している。職員の個性や得意な分野が發揮できる場面づくりをし、できたことに対して賞賛することで次回への意欲に繋がるようにしている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。人事考課システムを導入し、職員個々が向上心をもって勤務できるよう、就業環境の整備に努めている。事業所通信から、各種行事にて職員の個性が十分に發揮されていることが伝わる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同施設だけでなく、系列の障害者施設と合同で人権差別などについての研修や事例検討会を開き取り組んだ。	多機能ホームとしての施設内研修や事業所としての認知症研修等を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修以外に日々の業務のなかで指導している。何度でも同じ指導を繰り返し習得できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡会に参加し情報交換と交流の場を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入前には見学に来て頂き、グループホームでの生活を見ていただく。その後のアセスメントでは、遠慮なく要望等が言える環境作りに心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	遠慮なく意見が言える雰囲気づくりを行っています。見学や面談を行う中で、不安要素を見出し、払拭できるように心がけています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	普段の他事業所間の交流や他職種からの情報を広げ、ご利用者へ様々な方向からのサービス提供ができるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでご本人が行っていたであろう家事活動や、趣味活動を出来るだけ行いやすい準備支援を行っている。活動後には労をねぎらい、次への意欲へとつなげている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご本人の状態等を伝え、病院受診や外出等協力して頂いている。ご家族が出来る事、施設が出来る事を普段から話して共に支えているんだという事を理解して頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達や馴染みの方の面会は面会は居室でゆっくりと話せるようにしている。また、地域の運動会や行事、お祭りなどに参加している。	併設する小規模多機能型事業所から入居となるケースや、家族で利用されているケースもあり、併設事業所との連携を馴染みの関係継続にも活かしている。地域行事への参加や、家族との連携による美容院の利用等を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どフロアで過ごされ、ご希望で午睡される方以外はほかの方と談笑されたり、テレビを見たりと一人で孤立するようなことはない。それぞれの悩みをご利用者同士の話の中で解決していくことが多く見られる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された方の面会など行った。5月に看取りを行ったご家族からは、年末の餅つきの参加や年明けにも来設され、手作りの干支の贈り物をいただいた。お互いの近況を知らせあい、今後の関係の継続に繋げている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりや職員の情報からご本人の意向や希望を汲み取るように努めている。聞き取りが困難な方はこれまでの生活やご家族の意見を元にご本人の想いに添えるように心がけている。	日常の関わりの中で、本人の言葉や心情の変化を大切にキャッチできるよう、職員指導を行いながら、個別記録等に残し、職員間での共有を図っている。困難な場合には、家族等の協力を得ながら、本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時の聞き取りを繊細に行い、これまでの生活歴が反映できるようにしている。ご家族やこれまでのサービス提供者からの助言や意見を聞き取り経過の把握を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員からの情報収集、またはモニタリングやカンファレンス、アセスメントで現状の把握を常に行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやカンファレンスの他に、日々の業務の中での小さな気付き等反映し計画に活かしている。ご家族には面会時以外にも電話などで意見をうかがうようにしている。	日々の記録や申し送り、毎月のカンファレンスやモニタリング等を通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討されている。本人や家族の役割についても盛り込みながら、本人本位に基づく介護計画のあり方を意識されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや介護記録から支援経過を取り込み介護計画の見直しに活かしている。各職員に声掛け気付きや情報を表出しやすいようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から多職種との情報交換や各月のグループホーム連絡会などに参加し、様々な支援の工夫やサービスなどの情報を得ている。職員の意見にも柔軟に対応しサービスに行けしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで老友会で開かれているカラオケ会などの情報を得たり、町内行事等に積極的に参加させていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人の希望に合わせ、以前からのかかりつけ医に通っている方もいれば、事業所に往診して下さる先生を主治医にしている方と様々なである。	入居時に、事業所の医療連携体制を説明し、かかりつけ医について確認している。また、複数の協力医療機関より、定期的に訪問診療が実施される他、訪問看護との連携も図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護師には状態報告を行うと共に、褥瘡の処置や爪切りなどお願いしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での状態を伝え、必要品などあれば、ご家族に代わって持って行ったりしている。病院の面会などで情報を交換したり、連携室との連絡のやり取りをこまめに行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りについての説明を行い現時点での意向を伺っている。終末期には改めてご本の思いやご家族の意向を伺い、看取りケアを望まれる際には主治医、看護師と連携し支援している。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに事業所としての方針を説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認と方針の共有に努め、看取りのケアの実践に向けて、チームケアの質を高めるよう取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故などの緊急対応マニュアルに沿って対応している。また、主治医や管理者へ報告し指示に従って対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練に水害時の避難訓練を行った。訓練のなかでは職員全員が車椅子で2階の避難階段からの避難を体験した。	併設事業所と共に、年2回、時間帯や風水害等、想定を変更しながら避難訓練を実施している。運営推進会議の中で、地域の方より意見があり土嚢の設置が行われたり、地域の独居の方の避難先として実際に活用される等、双方向の協力体制がある。実際に、非常階段を利用して避難体制を確認する等、実践的な訓練実施に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックOや虐待などの研修の中でどのような声かけが適切か、どのように対応したらよいかなど事例を元にしたリ、グループワークをして分かりやすく業務に取り込めるようにしている。	個別の生活リズムの尊重や居場所の確保、個別の見守りの距離感等を意識しながら、より良いケアの実践に向けて取り組んでいる。また、スピーチロックOを目指し、職員研修を重ねている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の何気ない会話でご本人の希望や思い等聞いている。判断能力の低下がみられるご利用者にも分かりやすく説明し、表情などでくみ取れるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは施設側のペースに合わせてもらっている部分が多い。もう少しゆとりをもって関わられるように業務内容など見直したい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などはその方に合ったものを選ぶようにはしているが時々、洋服が上がったままでシャツが出ていたり、髪の毛に寝ぐせが付いたままになっている事がある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設内で作っており、皆様楽しみにされている。また、外食会やマルシェを利用され、朝食にパンを買って食べている方もいる。食器拭きの家事活動等を手伝っていただいている。	1階の厨房より、栄養バランスやカロリー量に配慮された食事が提供されている。週に1回開催されるマルシェで買い物したり、外食行事を企画し、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量などは毎食チェックしている。水分補給の難しい方などに、ジュースやコーヒーなど飲水しやすい物に代替えするなどして水分量を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い口腔内の保清に努めている。訪問歯科の利用では残存歯の維持や治療の為に指示などを受け清潔の保持の確保を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が出来るように二人介助で便座に掛けていただいたりしている。また、夜間は紙オムツを使用するが、日中は布パンツに切り替えたりとその方に合った支援を行っている。	個別の排泄状況や機能面の把握に努め、出来る限りトイレでの排泄が行えるよう、必要時には職員2名での介助を行っている。また、姿勢保持や立位保持を意識し、生活の中で機能維持・活用に向けたアプローチを行ったり、	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便サイクルの把握と水分補給確保に留意している。腹部マッサージなども行い、なるべく自然排便が出来るように取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	中々、一人ひとりのご希望に合わせる事は出来ていない。少しでも個々の希望に添えるように努めていく。	基本的な入浴スケジュールを設定し、週に2~3回の入浴に向けて、アプローチを行っている。職員の提案により手摺りを増設する等、リスク軽減にも努めながら、安全・安心な入浴支援に努めている。拒否される場合には、声掛けやタイミングを工夫し、無理強いとならないよう配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	落ち着き、安心して休んで頂けるように日中の時間から過ごして頂いている。夜間の不眠や浅眠のかたに改善が多く見られている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	緩下剤や睡眠導入剤などは必要が無ければ中止し、コントロールするようにしている。新しい処方箋を個人カルテに閉じ管理している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブに出掛けたり、カードゲームなどを楽しみ気分転換をしている。毎月一回のフラワー教室での作品をご自分の居室に飾って楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って出かける事はできないが、季節毎のドライブは天気などを見て出かけている。また、外食会やバスハイクなども計画を立て出掛けている。行き先は希望に添えるようにしている。	季節行事の企画や外食支援等を企画している。また、週に1回のマルシェ開催時には、買い物の支援も可能である。敷地内は広く、気軽な外気浴も可能である。感染対策が必須の中、個別の移動の配慮を行いながら、気軽な外気浴が行える環境にある。	感染対策が最優先である中、広い敷地は気軽な外気浴が可能な環境でもある。これまでの実践状況から、個別の移動への配慮を行いながら、日光浴や気分転換の機会の確保等へのアプローチも検討して欲しい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人少しのお金を財布に持っているが、他の方はお金を所持していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望が有れば電話したりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる環境作りは出来ていない。今後、皆さんで作った作品などを飾っていきたい。共用の空間で不快や混乱を招く事がないように日頃から整理し、安全に過ごして頂いている。	室内空間は、過度な飾り付けは行われておらず、落ち着いた雰囲気空間となっている。ソファの設置も含め、個別の居場所の確保や動線への配慮に努めながら、安心して過ごせるよう工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席で楽しそうに歓談している。殆どの方が日中は、フロアで過ごされており、居室に行かれる様であれば誘導したりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に持ち込まれたものを配し、思い出の写真やアルバムなどを置いている。居室は清潔に整理している。	仏壇や筆筒等が持ち込まれている居室は、個別の生活状況に応じて、動線の確保にも配慮しながら、安心して、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に混乱無く生活して頂けるように心がけている。お一人の方は居室のドアの手すりに折り紙のくす玉を下げお部屋が分かりやすいようにしている。		